

# SAN主催WEAワークショップの学びの評価 体験学習評価ソフト(3Eフォーム)を用いて



岡村泰斗(backcountry classroom Inc.)

# プログラム

日時：2014年6月23日1900-2100

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

講師：リッキーハロー（WEA会長）

通訳：岡村泰斗（WEAJ共同代表）

内容：

- 1.WEAJの話（WEAの概要・WEAJの機能）
- 2.WEAの話（改革の理由・今後のビジョン）
- 3.リッキーの会社とWEAの関係と成功の秘訣
- 4.アクションプラン

↓

- 5.懇親会



# ラダーリング調査

質問1. 今回の研修であなたにとって一番役に立ったことは何ですか?

- ①海外の野外に興味をもった
- ②野外のあたらし知識が身に付いた
- ③野外をもっと勉強したくなった
- ④野外指導者の国際資格に興味を持った
- ⑤難しすぎて野外に興味がなくなった

質問2. 質問1で選択したことを感じたのは具体的にどの活動でしたか?

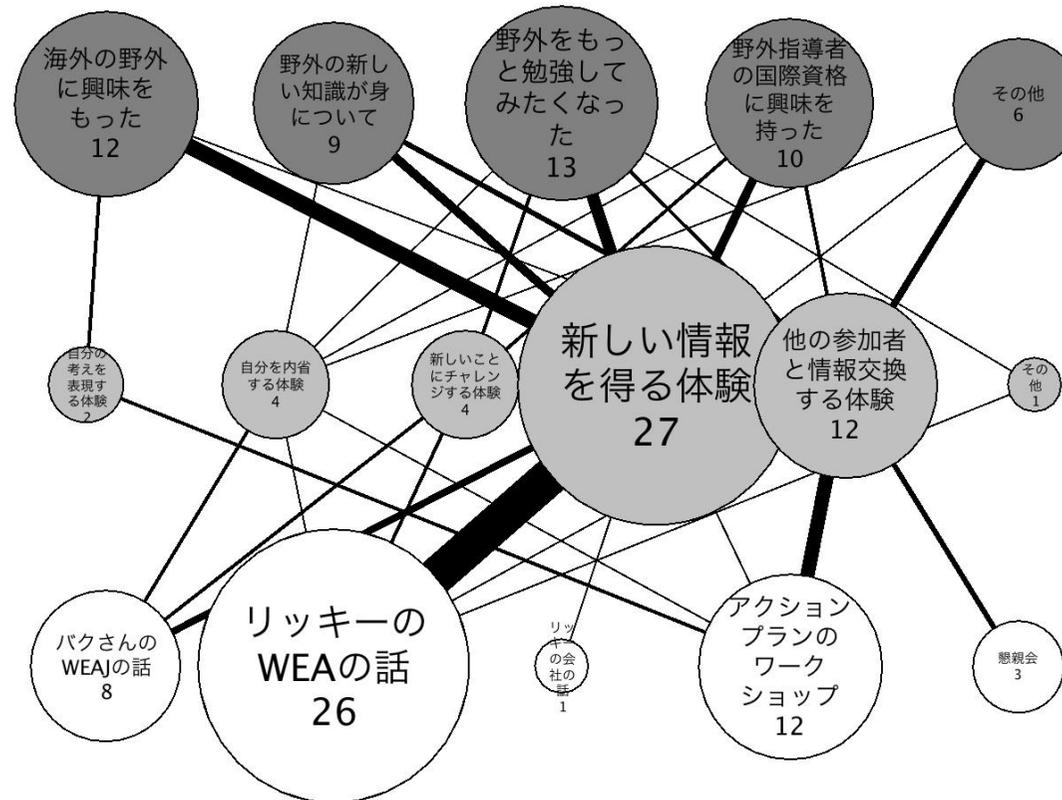
- ①バクさんのWEAJの話
- ②リッキーのWEAの話
- ③リッキーの会社の話
- ④アクションプラン
- ⑤懇親会

質問3. 質問2で選択した活動はあなたにとってどのような体験でしたか?

- ①自分を表現する体験
- ②自分を内省する体験
- ③新しいことにチャレンジする体験
- ④新しい情報を得る体験
- ⑤他の参加者と交流する体験

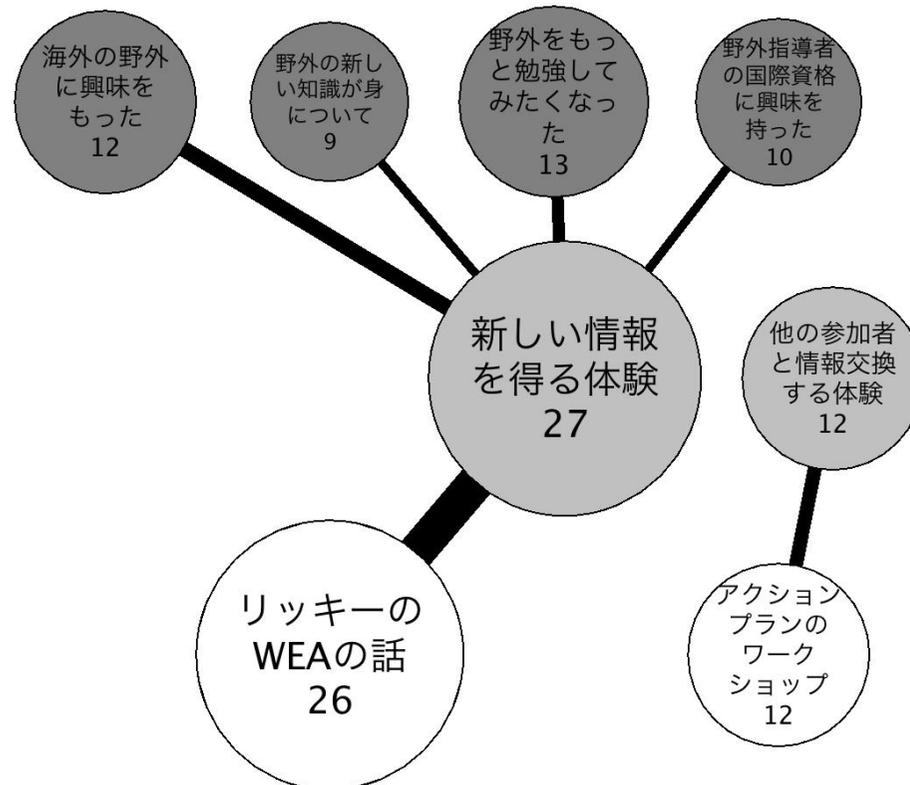


# ワークショップ全体の学び



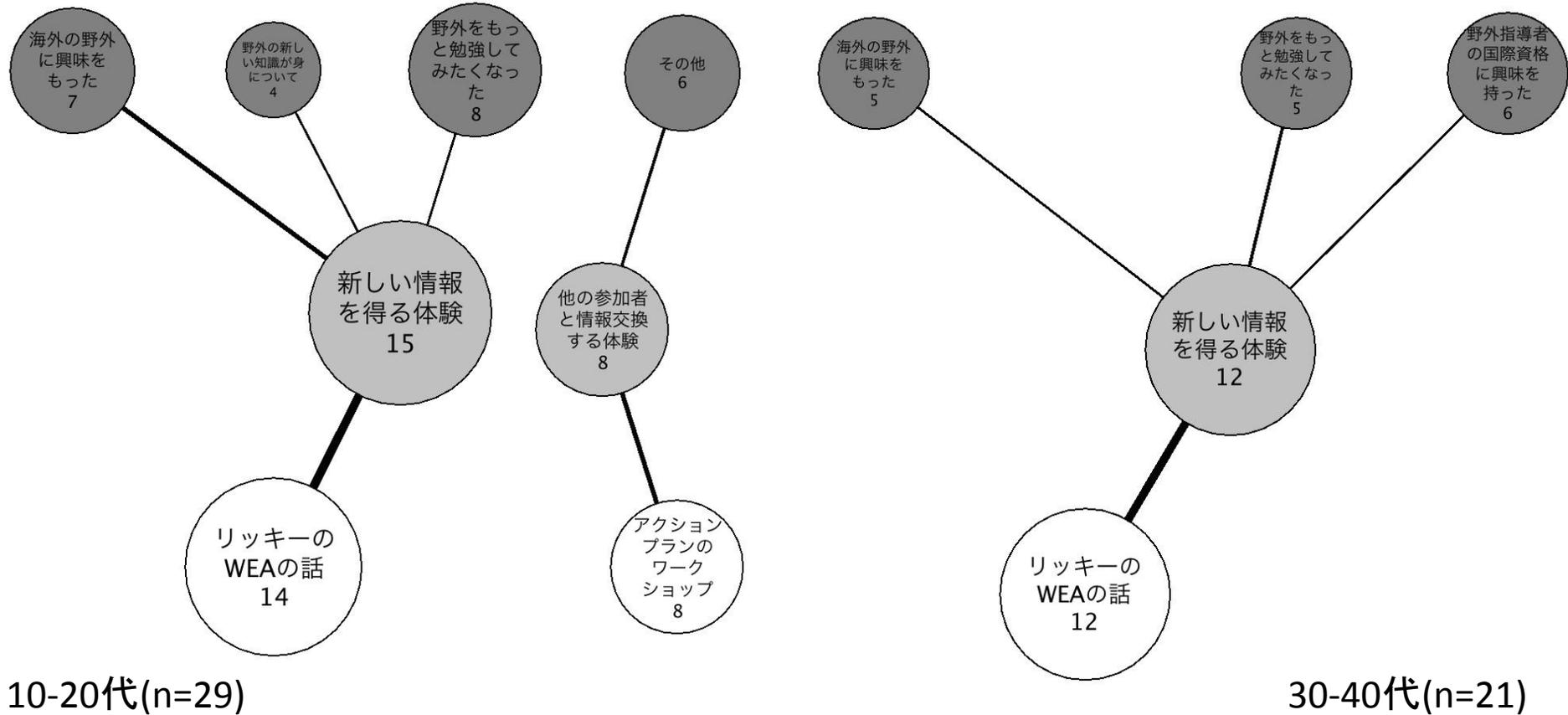
効果は、「野外に興味がなくなった」をのぞきバランスよく目的を達成できている。効果の要因となったのは、「リックキーのWEAの話」で「新しい情報を得る体験」を提供した。次いで、「アクションプラン」で「他者との交流体験」と認識された。「リックキーの会社の話」、「懇親会」は比較的学びの機会とはならなかった。

# ワークショップ全体の学び(要約)



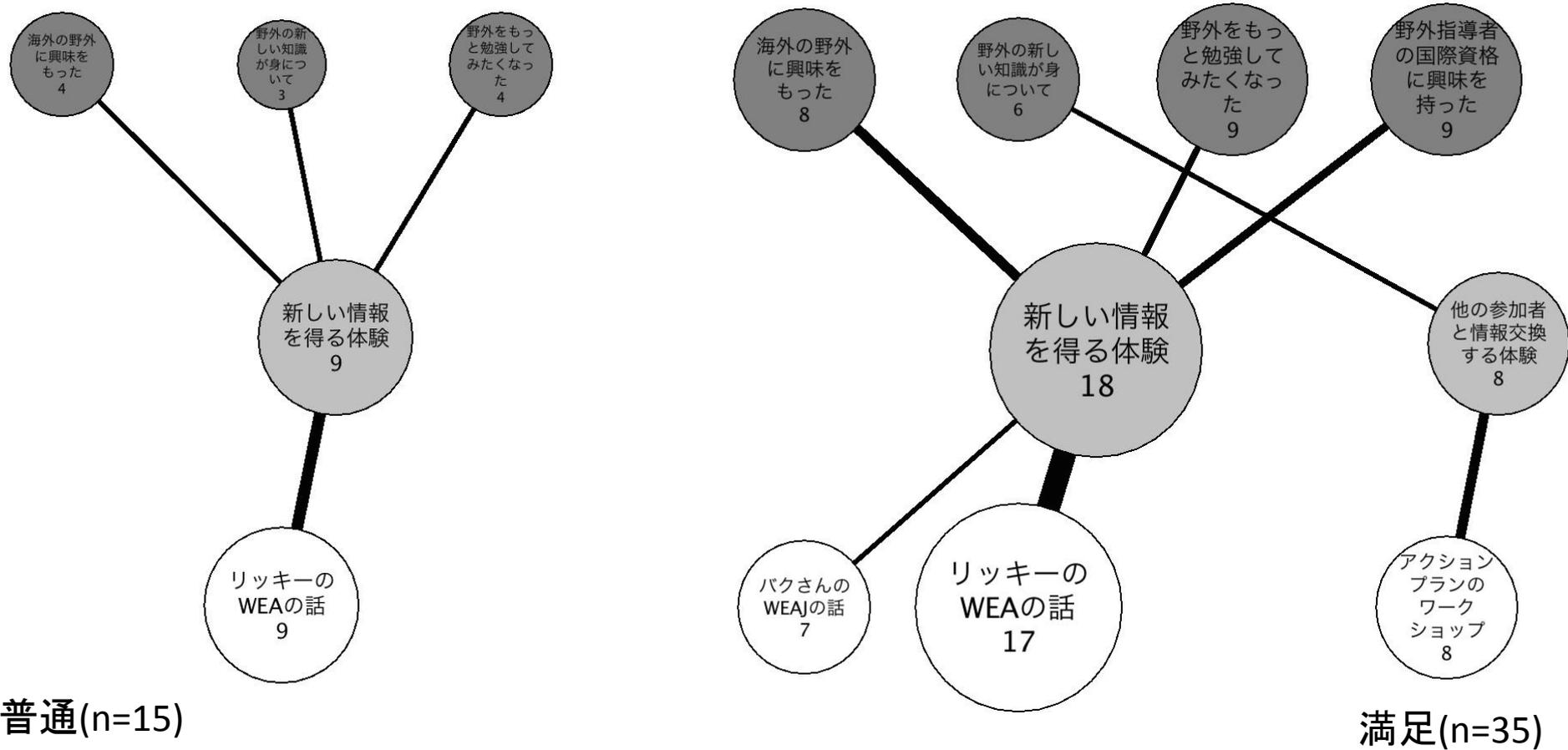
今回の最大の学びのプロセスは、「リッキーのWEAの話」であり、これが「新しい情報を得る体験」ととらえられ、『野外に対する興味、知識』、『海外の野外や資格に対する興味』に発展した。また、直接的に目的に対するアプローチは少なかったが、「アクションプラン」が「他の参加者との交流」として認識されていた。

# 年齢による比較



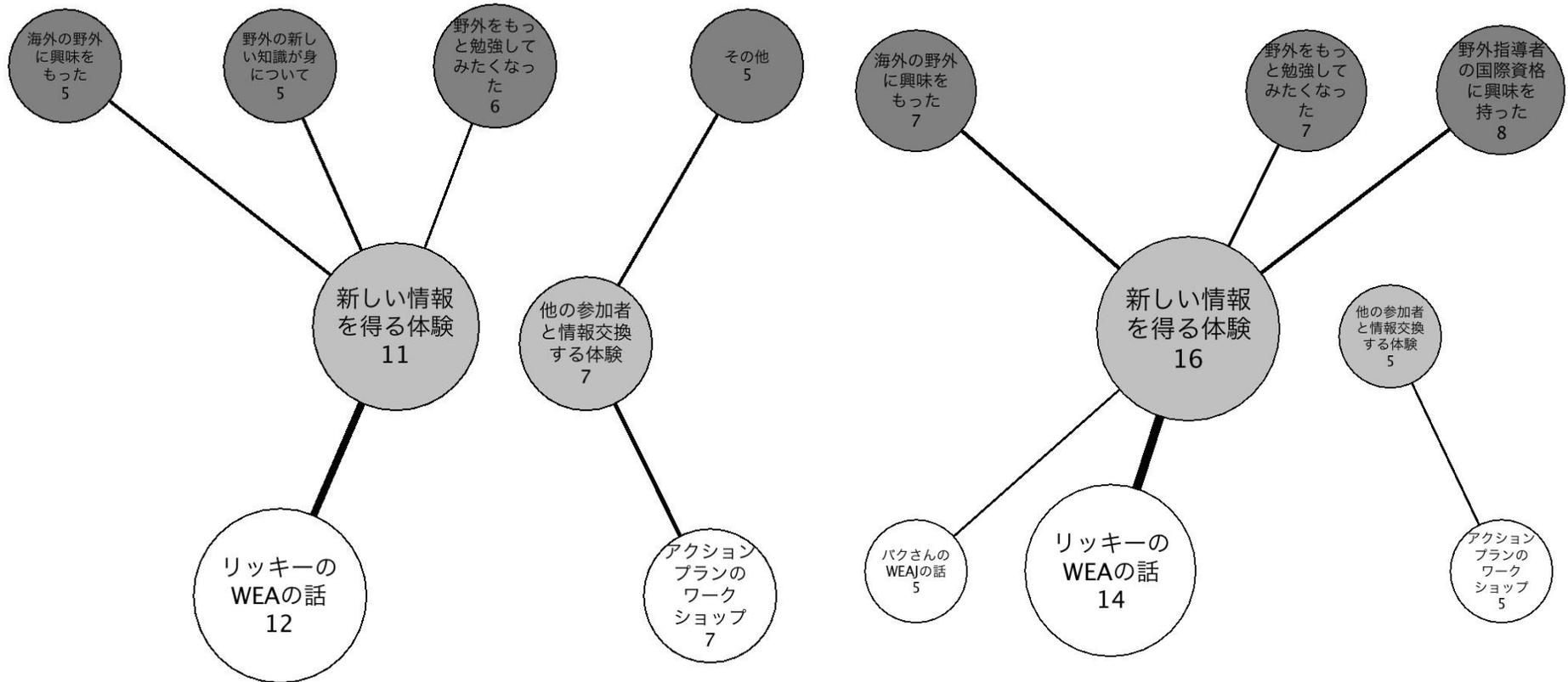
若手は、アクションプランを学びの要因としている傾向があった。また、効果も研修の目的以外のものを得ている傾向にあった。また、若手は野外の新しい知識、中堅は国際資格への興味により高い効果があった。

# 満足度による比較



満足度の高いものは「アクションプラン」を選択している傾向にあった。また、その活動による他者との情報交換のなかから、野外の新しい知識を得ていた。

# レポートによる比較



はじめて(n=23)

リピーター(n=27)

はじめての参加者は「野外の新しい知識」が、リピーターは「野外の国際資格に対する興味」により効果があった。また、リピーターは「WEAJの話」から情報を得ている傾向にあった。

# SANのワークショップへの示唆

今回の海外のWEAの話のように、新たな情報を得る体験を提供することにより、野外に関する新しい知識、野外に対する興味、海外の野外に対する興味、野外の国際資格に対する興味など、幅広い効果の要因となる。

若手の参加者や、研修会全体の満足のために、参加者間でディスカッションするようなワークショップを活用すると効果的である。

若手及びはじめての参加者には、野外に対する新しい情報を提供するべき。中堅、リピーターに対しては、野外の国際資格に関する情報など、職能に対する具体的な情報提供が効果的。

